

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-0033
 住 所 東京都中央区新川一丁目17番24号
 氏 名 味の素物流株式会社 印
 代表取締役社長 田中 宏幸
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素物流株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区東扇島17番地10		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	食品を主体とする物流サービス		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		1,801 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	安全・品質・環境部
		所在地	東京都中央区新川一丁目17番24号
	電話番号		03-5542-3637
	FAX番号		03-3555-3161
	メールアドレス		0
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別途 指針様式第2号の通り
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別途 指針様式第2号の通り
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別途 指針様式第2号の通り
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別途 指針様式第2号の通り
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 4,166 t-CO ₂ (調) 3,346	(実) 4,186 t-CO ₂ (調) 3,356	(実) 3,554 t-CO ₂ (調) 2,835	(実) 2,929 t-CO ₂ (調) 2,328	(実) 4,041 t-CO ₂ (調)
削減率		(実) -0.5 % (調) -0.3 %	(実) 14.7 % (調) 15.3 %	(実) 29.7 % (調) 30.4 %	(実) 3.0 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	延床面積		単位		t-CO ₂ /m ²	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値	
排出量 原単位等の値	0.04879	0.04903	0.05389	0.06934	0.04733	
削減率		-0.5 %	-10.5 %	-42.1 %	3.0 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	川崎市内3事業所のCO ₂ 排出量及び原単位は、下記記載通り物量の変化と保管貨物の変更により基準年度比0.5%の増加。 1. 東扇島第一低温物流センターは入出庫量増（前年比101.2%）及び夏期猛暑により電力使用量は前年比101.5%。 2. 東扇島第二低温物流センターは荷主貨物（豚肉）の温度管理を強化した結果、前年比108%。 3. 川崎物流センターは年間入出庫量が前年比92.2%と減少したが、常温倉庫で使用電力量は固定的であり前年比94.8%。
第2年度	○CO ₂ 発生量 川崎物流センターの賃貸借契約変更に伴い、当社からのエネルギー使用量の報告が4～9月のみとなったため、基準年度対比46.1%と大幅減となった。そのため川崎市内3事業所のCO ₂ 発生量は基準年度対比14.7%減となった。 ○排出量原単位 東扇島第一低温物流センター・東扇島第二低温物流センターと比較して原単位が低い川崎物流センター（常温倉庫）のCO ₂ 発生量が減ったことにより、全体の原単位を大幅に押し上げ、基準年度対比10.5%増となった。
第3年度	○CO ₂ 発生量 賃貸借契約変更に伴い川崎物流センターのエネルギーを未計上としたため、川崎市内事業所（2事業所）のCO ₂ 発生量は基準年度対比29.7%減となり、基準年度対比3%減の目標を大幅に上回る結果となった。 ○排出量原単位 東扇島第一低温物流センター・東扇島第二低温物流センターと比較して原単位が低い川崎物流センター（常温倉庫）のCO ₂ 発生量が未計上となったため、全体の原単位を大幅に押し上げた。その結果基準年度対比42.1%増となり、基準年度対比3%削減の目標を達成できなかった。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

基準年（2009年）を基準として年平均1%のエネルギー使用料削減を目標としているが、川崎物流センターのエネルギー管理を味の素㈱へ移管したことが主な要因となり、エネルギー使用料原単位は基準年対比+0.7%となった。
また、CO₂排出量原単位は当社の事業所エネルギーのほとんどが電力であり、2012年度の電気事業者のCO₂排出係数が大幅に増加したため、CO₂排出量原単位は基準年度対比+15.6%と大幅に上回った。

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理体制の整備 2. 管理標準の整備 3. エネルギー使用状況の把握 4. 原単位の管理 5. 評価と改善
	第1年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理体制の整備 ISO14001の管理体制に準じ運営。 エネルギー管理統括者、エネルギー管理企画推進者を選任。 2. エネルギー管理規定を整備した(運用は23年6月より)。 3・4 エネルギー使用状況の把握 及び原単位の管理 ISO14001の環境データにて把握。
	第2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理体制の整備 組織変更により、管轄部署が経営企画部から安全・品質・環境部へ変更 2. 管理標準の整備 エネルギー管理規定を23年6月より運用開始 3. 4. 5. エネルギー使用状況の把握、原単位の管理、評価と改善 環境データのKPI化(新たにデータ管理システムを開発)による、現状把握と管理の作業負荷軽減(平成24年4月より運用開始)
	第3年度	<ol style="list-style-type: none"> 3. 4. エネルギー使用状況の把握、原単位の管理 環境KPIシステムにて、前月と前年同月を毎月確認する運用を開始。 5. 評価と改善 半期毎のマネジメントレビューにて、目標に対する評価と継続的な改善を実施。 <p>計画に挙げた5項目は平成24年度迄に全て実施。</p>
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 燃費法への転換 2. 子会社の自社車両のエコドライブ推進
第1年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子会社の自社車両を含む自社拠点からの直送について実走行距離・燃費を把握する仕組みを構築。効率の悪い車両の大型化（8台）及び低公害車の導入（ハイブリッド車2台、CNG車3台）。CO2排出量原単位は2009年度比0.9%削減。 2. 子会社の自社車両において、エコドライブの実施（アイドリングストップ、走行速度50km/h以下、「惰性運転」励行等）及びデジタログラフのデータによる検証を推進。燃費は前年比1%向上。
第2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子会社の自社車両のエコドライブ推進 2010年度と比較して川崎地区の子会社車両の燃費は3.6%向上。
第3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 燃費法への転換 自社拠点からの直送区間に関し、燃費法で算出できる仕組みを構築。2012年度分より一部荷主に対し燃費法で算出したデータ提供を開始。今後も燃費法により算出したデータ提供を継続する。 2. 子会社の自社車両のエコドライブ推進 川崎地区の子会社車両の燃費は基準年対比：8.8%、2011年対比：5.4%向上。今後もデジタログラフの機能を使用し、エコドライブの指導を継続する。

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物の資源化 2. 廃棄物発生量の抑制 3. エコ運搬の要請
第1年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物資源化率 100% 2. 廃棄物発生量 前年比+5.3%（廃プラスチックパレット13.8t一括廃棄あり） 3. エコ運搬の要請 配送委託先6件、荷主9件に対し書面による要請実施
第2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物資源化率 100% 2. 廃棄物発生量 前年比+15.1%（東扇島第一低温物流センターにて、紙類や金属類を平成23年11月に約30tまとめて廃棄、東日本大震災の影響で倒壊した商品15t廃棄が発生） 3. エコ運搬の要請 配送委託先8件、荷主14件に対し書面による要請を実施
第3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物資源化率は100%を達成。今後も現状の処理業者との契約を継続する。 2. 廃棄物発生量は川崎地区で基準年対比7.1%増加した。東扇島第二低温物流センター移転に伴い、22.8tの廃棄物が発生したことが主な要因。取組内容としては物流品質の向上による廃棄物削減に継続して取り組む。 3. エコ運搬の要請 配送委託先9件、荷主14件に対し書面による要請を実施。次年度以降も継続実施。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	3,251	t-CO ₂
(調)	3,244	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東扇島第一低温物流センター	川崎市川崎区東扇島17番地10	4711	倉庫業	2,378 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	1
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--